

令和2年度 学校評価報告書  
島根県立松江南高等学校

令和3年3月30日

【4段階評価】 A:十分に達成できている状況, B:概ね達成できている状況, C:どちらかといえば達成できていない状況, D:ほとんど達成できていない状況

【肯定的評価(%)】=わからない(実態が分からない)を除いた回答総数(①+②+③+④)における肯定的意見(①+②)の割合

【評価値】 アンケート(回答) ①そう思う(良い)⇒4点, ②大体そう思う(ほぼ良い)⇒3点, ③あまりそう思わない(あまり良くない)⇒2点, ④そう思わない(良くない)⇒1点, ⑤わからない(実態が分からない)

教育目標	重点目標	分掌	学校評価実施項目	学校評価質問項目	肯定的評価(%)			評価値			自己評価		学校関係者評価	
					教員	生徒	保護者	教員	生徒	保護者	評価	概評と改善策	評価	概評
<p>【校訓】 「ミッション」グローバル社会を生き抜き、質実剛健・創造進取・和敬共栄</p> <p>その持続可能な発展に貢献する志の高い人材を育成する。</p> <p>【ビジョン】 主体的・探究的な学びを推進し、地域の進学拠点校として信頼される学校</p> <p>◇生徒に多様な学びや体験の機会を提供し、高いレベルの「学力・社会力・人間力」を備えた全人的成長を促す学校</p> <p>◇授業改善、探究的な学びの一層の充実を図り、生徒が高い志を持って進路実現に挑戦し達成する学校</p> <p>◇「SSH事業」、「探究科学科」、「単位制」導入などの「60年目の改革」に取り組み、教育活動のさらなる充実と発展を期す学校</p> <p>◇教職員が責任と誇りを持ち、常に進取の気概で教師力の向上に努め、「チーム南」として協働する学校</p> <p>◇魅力と活力ある学校づくりを推進し、保護者や同窓生、地域に信頼され、その期待に応える学校</p> <p>【育てたい生徒像】 ◇心身ともに自立し、知識・技能を習得・活用してより深い学びを主体的に実践する生徒</p> <p>◇課題の解決や新たな価値の創造に、他者と切磋琢磨し協働して取り組むことができる生徒</p> <p>◇学びを通じて自らが生きるフィールドを見出し、強い意志で果敢に挑戦することができる生徒</p> <p>「育てたい3つの力」 読解力 思考力 主体性</p>	総務	関係機関等との連携・運営	PTA活動(会合、研修、「清明」の発行等)は活発に行われたか。	94.1	-	84.8	3.3	-	3.0	B	・新型コロナウイルス感染症拡大のため、総会、研修旅行等の行事が開催できなかったが、入念な感染防止策をとった進路講演会に多くの保護者が参加した。役員との連携を図りながら円滑なPTA活動を進めていく。	B	【情報発信】 ・新しく更新されたHPは非常に良くなった。アップされたPR動画も拝見した。南高の魅力が効果的に発信されている。部活動など情報の更新も頻繁にあり注目している。HPを見る人に活気ある学校を印象づけられている。近年、中学生の進路研究もスマホやパソコンで情報収集していると聞く。HPを活用したPRが非常に有効である。	
	情報発信	教育活動に関して、適切に情報発信を行うことができたか。	94.6	-	88.4	3.3	-	3.1	B	・昨年度リニューアルした学校ホームページは、こまめな更新ともあいまって、ご好評いただいている。また、コロナ禍の今年度は、緊急連絡や行事開催の連絡等にスクールメールが威力を発揮した。				
	教務	学習習慣確立	生徒の学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図ることができたか。	80.4	70.4	86.7	2.9	2.8	3.1	B	・評価値は例年並みだが全体的に低い。教職員、生徒、保護者それぞれ立場や期待する内容が違いためであろう。「学習習慣」「基礎学力の定着」「主体的な学習」について、引き続き有効な改善策を検討していく。	C	【学習習慣確立】【生徒の主体的な学習活動】 ・基礎学力の定着や主体的な学習の評価において、先生の評価と生徒の評価に開きがあること生徒の評価が低いことについて原因を追究して改善することが大切である。評価項目に対する具体的な指標・数値目標が生徒や保護者と共有できていることが大事であり、生徒が自分に合った評価基準をもつこと、その作成のための時間をつくることも大切である。	
	生徒指導	生徒の主体的な学習活動	授業展開を工夫し、生徒が主体的に学習する姿勢を育成することができたか。	88.5	70.0	81.9	3.1	2.9	3.0	B	・新たに、ICT機器を活用した「授業アンケート」を実施することができた。1年間のデータを分析し、授業改善委員会や教科会で、次年度に向けての対応策を検討していく。			
	生徒指導	基本的生活習慣、規範意識	教職員は、生徒に規律ある生活が習慣化できるように指導することができたか。	78.2	69.7	72.8	2.9	2.9	2.9	B	・生活習慣での課題は個人により相違があり回答がばらついた。次年度は具体的な質問項目により、課題に対しての振り返りをさせたい。また、生徒会を中心に生徒が自ら課題解決できるように支援していきたい。	B	【基本的生活習慣】 ・自分の時間を自ら管理できることは、主体的に行動するための基盤である。生活習慣の具体例を明確に生徒に伝えて、自分自身の達成状況を確認させる必要がある。基本的生活習慣の確立は、高校時代だけでなく卒業後にもつながる資質能力であり、南高生活の中でしっかりと身につけて欲しい。	
		諸活動への積極的参加	部活動をはじめ様々な活動へ積極的な参加や自主的な取組を支援できたか。	94.4	81.9	87.6	3.3	3.1	3.1	B	・コロナ禍で様々な活動が自粛となった。今後は感染拡大防止をした上で、地域との交流も図れるような活動を支援していきたい。(部活動・委員会活動・ボランティア活動の活性化)	B	【規範意識】 ・自転車の乗り方や公共意識については、学校だけでなく家庭での教育も関係している。家庭との連携が必要である。	
		いじめ対応	教職員は、いじめ等の防止・発見、いじめへの組織的な対応ができたか。	96.4	88.0	87.0	3.4	3.2	3.1	B	・生徒と保護者、教職員とも意識の差はなかったが、生徒・保護者の「わからない」との回答が多かったことは改善が必要である。生徒・保護者へ「学校いじめ防止基本方針」等の周知をしていきたい。	B	【生徒指導上の組織的対応】 ・生徒指導上の問題発生に対して迅速かつ組織的に対応されていることがわかり、大変安心している。種々の問題は誰にも起こりうることであり、学校として安心・安全に教育活動の場を作ることを最上位の目標として考えられ実施されていることが確認できた。生徒・保護者にとって信頼の基盤である。	
	進路指導	計画的なキャリア教育	生徒が自分の将来の職業、働き方、進路などを考えたり決めたりできるように、教育活動が行われたか。	96.4	92.7	86.1	3.4	3.3	3.1	B	・日々の授業やHR活動等で生徒自身の自主的な活動を促す企画を行う必要を認める。また、受験に関わる最新の情報更新を行い、低学年に対して効果的な仕掛けをしたい。			
		実効的なキャリア教育	自分の進路を研究したり決めたりするために、資料提供や相談・面談など、生徒一人ひとり応じた進路指導が行われたか。	85.7	93.3	84.3	3.2	3.4	3.0	B	・大学入試改革の情報収集に努め、授業をとらえて確かな学力を養成するため企画を充実させたい。多くの情報が必要としている高学年の保護者に対する情報提供に努め、進路講演会、学年PTA等を充実していきたい。	B	【個に応じた指導の充実】 ・知識技能といった従来の学力を育てることはもちろんだが、大学入試の選抜方法が広がり受験生の選択肢が増えている。推薦選抜における面接・小論文の指導など手厚く実施していることがわかった。探究科学科やSSH事業の実践を通じて、高校時代に何を頑張ってきたのかを積極的にアピールできる生徒を育てる教育に期待する。進路に関する保護者への情報提供・説明会・研修会も手厚く行って欲しい。	
	教育開発	探究的な学び	「RAP」・「総合的な探究の時間」・「課題研究」等で、生徒が「探究的な学びを」深めたり「将来の生き方・あり方」について考えを深めたりする取り組みができたか。	86.8	91.5	78.0	3.2	3.3	2.9	B	・教員、生徒の高い評価に対して、保護者の「わからない」という回答が目立った。来年度から全校体制でのRAPの指導が始まるので、生徒の進路実現につながるプログラムの実施や保護者、地域への情報発信を進める。	B	【社会に開かれた教育課程に向けて】 ・探究科学科は魅力的で楽しそうな学科だと感じている。SDGsについての取組やフィールドワークなどは地元企業等からも関心が高く、注目している。産官学連携したSSH事業の実践等についても保護者・地域に対して積極的に発信して欲しい。中学校に対する説明会などの情報発信において、生徒や若手教員を抜擢することも有効だと思われる。	
		社会に開かれた学び	同窓会・大学・地域等と連携し生徒の「探究的な学び」を支えることはできたか。	92.7	82.3	68.8	3.4	3.1	2.8	B	・教員・生徒の評価が高い一方で、保護者の「わからない」という回答が多かった。今年度は校外連携のネットワークづくりを進めた一年だったので、保護者への情報発信が不十分だった。次年度は情報発信を進めたい。	B	【相談・支援】 ・支援が必要な生徒・保護者に対して、組織的に手厚く支援していることがわかった。 ・コロナ禍において、ICTを活用した通信授業は有効である。学校と家庭及び関係機関との連携によって生徒一人一人の学びを充実させて欲しい。	
	保健	環境美化意識	清掃活動を通じて、校内の美化意識を高めることはできたか。	94.5	93.4	-	3.3	3.4	-	B	・清掃に関しては、教員の「ややできていない」の評価が目立ち、改善の余地がある。生徒の清掃に関する意識を向上させる働きかけを工夫するとともに、校内美化の意識向上に努めたい。	B	【健康管理】 ・「健康管理」については、教員と生徒では評価に差がみられた。保健委員が作成している「保健だより」の内容について、教員がフォローしていくような取り組みが課題である。	
		教育相談・特別支援	教育相談や特別な支援を必要とする生徒への支援に努めていたか。	70.4	79.6	75.9	2.8	3.0	2.9	B	・「相談・支援」については、教員・生徒とも良好な評価であった。今年度、ケース会議を充実させるなど力を入れた分野であり、次年度も継続していきたい。保護者に対しては、情報発信をより充実させたい。	B	【図書館活動・メディアスペース】 ・生徒がいつでも訪れやすい環境ができている。コロナ禍の中、イベントも工夫して実施された。生徒の読書活動を充実させて欲しい。 ・60周年事業の一環で探究Labが整備された。ICT活用の拠点として図書館と連動したメディアスペースとなった。様々な機会に積極的に活用して欲しい。	
		健康指導	「保健講話」や「保健だより」によって、生徒の健康管理への啓発が行われたか。	92.9	78.3	-	3.2	2.9	-	B	・「健康管理」については、教員と生徒では評価に差がみられた。保健委員が作成している「保健だより」の内容について、教員がフォローしていくような取り組みが課題である。	B	【図書館活動・メディアスペース】 ・生徒がいつでも訪れやすい環境ができている。コロナ禍の中、イベントも工夫して実施された。生徒の読書活動を充実させて欲しい。 ・60周年事業の一環で探究Labが整備された。ICT活用の拠点として図書館と連動したメディアスペースとなった。様々な機会に積極的に活用して欲しい。	
	図書	図書館活動	図書館は、生徒が本に親しみ、自ら考え学ぶ姿勢が身につくよう、読書や探究的な学びへの支援を行ったか。	100.0	93.5	-	3.4	3.3	-	B	・昨年同様、良い評価だったので、今後も取組を継続していきたい。今年度からRAPの授業が始まり、授業形態により図書館が利用しづらい状態もあった。生徒への細やかな指導を工夫していきたい。	B	【図書館活動・メディアスペース】 ・生徒がいつでも訪れやすい環境ができている。コロナ禍の中、イベントも工夫して実施された。生徒の読書活動を充実させて欲しい。 ・60周年事業の一環で探究Labが整備された。ICT活用の拠点として図書館と連動したメディアスペースとなった。様々な機会に積極的に活用して欲しい。	
		図書館活動	図書館からの広報（「図書館だより」等）や図書委員会活動、イベント開催（ピブリオバトル等）は工夫されていたか。	98.2	92.8	-	3.5	3.3	-	B	・新型コロナウイルス感染拡大防止によりイベントが縮小傾向になり、ピブリオバトル、図書館コンサートなどが予定おりのかたちで開催できなかった。来年度以降の開催方法について検討していきたい。	B	【図書館活動・メディアスペース】 ・生徒がいつでも訪れやすい環境ができている。コロナ禍の中、イベントも工夫して実施された。生徒の読書活動を充実させて欲しい。 ・60周年事業の一環で探究Labが整備された。ICT活用の拠点として図書館と連動したメディアスペースとなった。様々な機会に積極的に活用して欲しい。	
	1学年	生徒の主体的な学習活動	教職員は、生徒が「学ぶことの意味」を考え、学びに対する粘り強い姿勢を身につけるよう、指導に努めたか。	96.3	86.3	79.4	3.4	3.2	3.0	B	・南高での学びが今後にどうつながるか、「学ぶことの意味」の定義は個人で異なるが、概ね肯定的な評価だった。一方、学力に不安がある生徒ほど学ぶ意味を感じにくくなっているのでは丁寧な指導を心がけたい。	B	【初期指導】 ・入学早々の休校措置で生徒も先生も大変だったと思う。コロナ禍の中においても、授業進度を回復し、行事を工夫して実施し、1年を通じて粘り強く指導されたと思う。評価・分析をして改善策がしっかり整理できているので、2年生以降の生徒の成長に期待する。	
		生徒の自律的生活支援	教職員は、生徒が自律的な生活を確立できるよう、指導に努めたか。	89.5	88.3	85.8	3.0	3.2	3.1	B	・概ね良好な評価であるが、学力に不安がある生徒が自律的生活ができていない傾向があるので、学習意欲を喚起し、生活リズムの改善に保健部と連携して取り組みたい。	B	【全体を通じて】 ・SSH事業や探究科学科など、変化しようとしてチャレンジしていく学校が伸びていくと考える。 ・学校や教師が常にブチ改革をしていく姿勢を見せることが生徒の意欲を伸ばしていくことに繋がると考える。 ・学校評価の分析を通じて課題の原因を究明し、課題を克服するための具体的な改善策を検討することが重要であり、そのための評価・分析となるよう期待する。	
	2学年	相互尊重と集団意識の醸成	教職員は、生徒が互いに尊重しあい、ともに進路実現に向けてチャレンジしていく生徒集団になるよう、指導に努めたか。	93.3	91.7	84.7	3.2	3.2	3.0	B	・概ね良好な評価であるが、保護者の「わからない」という回答も多く、生徒が家庭で学校の話をしないと考えられる。学級通信、面談での丁寧な情報提供を通じて、進路実現に向けた共通認識を形成していきたい。	B	【その他】 ・卒業生会としてもWeb会議を活用して話し合いを進めている。今後は、学校においても様々な面でWeb会議システムやICTなどを積極的に活用していく必要がある。 ・学校の取組が伝わっていないから保護者の評価が低く出てくる。情報提供・アピールを工夫して、保護者が学校の頑張りを正しく評価できるように認識してもらい必要がある。	
		生活や学習習慣の確立	教職員は、生徒が健康で自立的な生活習慣に基づいた、授業を中心とする学習習慣を確立できるよう、指導に努めたか。	93.3	90.4	86.8	3.1	3.2	3.0	B	・概ね良好な評価を得た。担任による面談や「学習の記録」の活用、教科担任による丁寧な指導により、授業を中心とした生活習慣ができてきたようである。	B	【その他】 ・卒業生会としてもWeb会議を活用して話し合いを進めている。今後は、学校においても様々な面でWeb会議システムやICTなどを積極的に活用していく必要がある。 ・学校の取組が伝わっていないから保護者の評価が低く出てくる。情報提供・アピールを工夫して、保護者が学校の頑張りを正しく評価できるように認識してもらい必要がある。	
保護者との連携・生徒理解		教職員は、生徒面談や保護者との連絡等を密にして生徒理解に努め、生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、支援に努めたか。	100.0	89.1	85.6	3.7	3.2	3.0	B	・臨時休校時や分散登校時および学期に数回の面談を実施したことが高く評価された。また、心配な生徒については保護者と連絡し、学年会と保健部、生徒指導部が連携して支援体制をとっていたこともよかった。	B	【その他】 ・卒業生会としてもWeb会議を活用して話し合いを進めている。今後は、学校においても様々な面でWeb会議システムやICTなどを積極的に活用していく必要がある。 ・学校の取組が伝わっていないから保護者の評価が低く出てくる。情報提供・アピールを工夫して、保護者が学校の頑張りを正しく評価できるように認識してもらい必要がある。		
3学年	相互尊重と集団意識の醸成	教職員は、生徒が互いに尊重しあい、ともに進路実現に向けてチャレンジしていく生徒集団になるよう、指導に努めたか。	89.5	96.6	86.8	3.2	3.5	3.1	B	・生徒ははとも感謝しており、良い評価につながった。	B	【その他】 ・卒業生会としてもWeb会議を活用して話し合いを進めている。今後は、学校においても様々な面でWeb会議システムやICTなどを積極的に活用していく必要がある。 ・学校の取組が伝わっていないから保護者の評価が低く出てくる。情報提供・アピールを工夫して、保護者が学校の頑張りを正しく評価できるように認識してもらい必要がある。		
	生活や学習習慣の確立	教職員は、生徒が健康で自立的な生活習慣に基づいた、授業を中心とする学習習慣を確立できるよう、指導に努めたか。	100.0	96.2	90.4	3.4	3.5	3.2	B	・すべての生徒が進路決定に向けて、「やり切った」という思いを持って4月を迎えることができるように、残された日々全力で支援して行きたい。	B	【その他】 ・卒業生会としてもWeb会議を活用して話し合いを進めている。今後は、学校においても様々な面でWeb会議システムやICTなどを積極的に活用していく必要がある。 ・学校の取組が伝わっていないから保護者の評価が低く出てくる。情報提供・アピールを工夫して、保護者が学校の頑張りを正しく評価できるように認識してもらい必要がある。		
	保護者との連携・生徒理解	教職員は、生徒面談や保護者との連絡等を密にして生徒理解に努め、生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、支援に努めたか。	94.7	94.0	85.1	3.4	3.4	3.2	B	・今年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休業や大学入学共通テストの度重なる変更のために振り回されたが、保護者説明会を2度実施するなど、情報発信に努めた結果良好な評価につながった。	B	【その他】 ・卒業生会としてもWeb会議を活用して話し合いを進めている。今後は、学校においても様々な面でWeb会議システムやICTなどを積極的に活用していく必要がある。 ・学校の取組が伝わっていないから保護者の評価が低く出てくる。情報提供・アピールを工夫して、保護者が学校の頑張りを正しく評価できるように認識してもらい必要がある。		